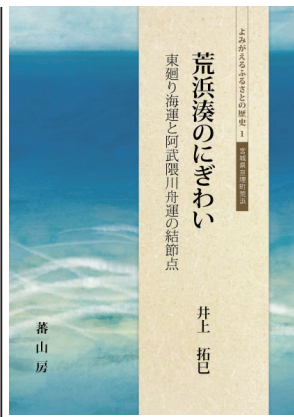


よみがえるふるさとの歴史

失われたふるさとの歴史をよみがえらせて、被災地の方々の心の復興に少しでも役に立つことができればと考えて、このシリーズを企画しました。
平川新 NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク理事長



荒浜湊のにぎわい

井上 拓巳

東廻り海運と阿武隈川舟運の結節点

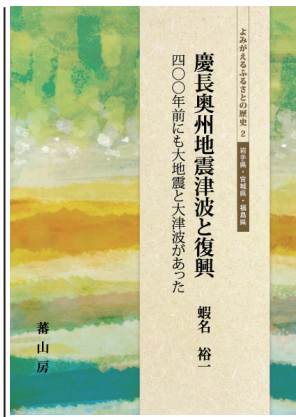
よみがえるふるさとの歴史 1 宮城県巨理町荒浜

荒浜湊のにぎわい

東廻り海運と阿武隈川舟運の結節点

井上拓巳

江戸時代から明治時代初期にかけて、荒浜（宮城県巨理町荒浜）は「物」と「人」の交流が盛んに行われる場所でした。これは荒浜が阿武隈川の河口付近に位置していて、東廻り海運と阿武隈川舟運の結節点として機能していたからです。城米輸送をキーワードに、その賑わいの様子、沖縄や中国への漂流体験など、水運のドラマを活写します。



慶長奥州地震津波と復興

蝦名 裕一

四〇〇年前にも大地震と大津波があった

よみがえるふるさとの歴史 2 岩手県・宮城県・福島県

慶長奥州地震津波と復興

四〇〇年前にも大地震と大津波があった

蝦名裕一

伊達政宗も大震災を体験しました。東日本大震災は、貞観地震津波以来一〇〇〇年ぶりの大震災と言われますが、政宗の時代に起こった四〇〇年前の慶長奥州地震津波が、それに匹敵する大震災である可能性が出てきました。古文書に書き記されたその実態に迫り、復興や防災につながる人間の意志と英知を尋ねます。

「続刊 6月刊行予定」よみがえるふるさとの歴史 3

仙台市若林区

イグネのある村へ 仙台平野における近世村落の成立 菅野正道

東日本大震災で大きな被害を受けた仙台の東に広がる沖積平野に、イグネ（屋敷林）が点在する六郷と七郷と呼ばれる二つの地域があります。六郷と七郷が隣り合いながらも、それぞれに異なる地域性を形成することとなる中世から近世初期に注目し、今に至る歴史的基盤を紹介します。

「続刊 7月刊行予定」よみがえるふるさとの歴史 4

秋保温泉・川渡温泉・青根温泉

湯けむり復興計画 江戸時代の飢饉を乗り越えて 高橋陽一

江戸時代の最大の災害は地震・津波ではなく、飢饉です。仙台藩では、天明飢饉の死者は二〇万人に上ったといわれます。町や村の人口が激減する危機的状況に見舞われながらも、人々は自らの手で地域の再生をはかります。その一つが温泉を利用した復興でした。

*続刊のタイトルは、変更される可能性があります。

お近くの有力書店でご購入ください。書店に不在のときは、蕃山房（発行所）にお問合せください。ホームページからご購入できます。ご活用ください。

発行所：蕃山房

仙台市青葉区木町一丁目 1-11

朝日プラザ北一番丁一階 106B

<http://banzanbou.com/>

(〒980-0801)

090-8250-7899 (電話)

022-224-5308 (FAX)

販売所：本の森

仙台市若林区新寺一丁目 5-26-305

(〒984-0051)

022-293-1303 (電話・FAX)